

令和4年度 日本航空協会表彰と「空の日」・「空の旬間」事業 — 木内氏、永野氏「航空功績賞」を受賞 —

毎年9月20日の「空の日」、9月20日から30日にかけての「空の旬間」にあわせて各種行事が展開されているが、このひとつに（一財）日本航空協会会長から、我が国の航空の発展に尽力した航空功労者に対する表彰が行われている。

当工業会は、日本航空協会による「航空関係者表彰」の推薦団体となっており、会員企業から表彰候補者を募集し日本航空協会に推薦したところ、令和4年度の「航空功績賞」に2名が受賞した。ここに、この素晴らしい栄誉をたたえるとともに、ご功績の一端を紹介する。

併せて、令和4年度「空の日」・「空の旬間」事業の概要を紹介する。

なお、当工業会は、日本航空協会を事務局とする「空の日」・「空の旬間」実行委員会の委員として本件事業を支援している。

1. 日本航空協会 航空関係者表彰

航空功績賞

「航空功績賞」は、航空に関する文化、科学技術および事業等の発展に著しく寄与された方またはグループに贈られる賞である。

(1) 木内 重基 氏

木内氏は、昭和54年、日産自動車(株)に入社、宇宙航空事業部に配属。平成12年、日産自動車宇宙航空部門の営業譲渡により(株)アイ・エイチ・アイ・エアロスペース（現(株)IHIエアロスペース）宇宙技術部長など、長きにわたり宇宙航空関係の業務に従事した後、同社代表取締役社長に就かれた。

この間、宇宙分野では我が国独自技術による固体ロケットの技術開発を担当し、宇宙実験用小型ロケットTR-1A、科学衛星打上げ用大型固体ロケットM-V、純国産基幹ロケットH-IIAの固体ロケットブースターSRB-Aの開発において主導的な役割を果たされた。更に



木内 重基 氏
元 (株)IHIエアロスペース 代表取締役社長

はM-V後継機の我が国のもう一つの基幹ロケットであるイプシロンの開発事業を主導し、その1号機打上げからの連続成功とともに民営化へ道筋を確立するなど、我が国独自の宇宙開発と事業発展に大いに貢献された。

民間航空機ジェットエンジン分野においても、ロケット開発で培った複合材（FRP）技術をジェットエンジンに応用するための研究・開発と事業化を積極的に主導し、中小型

旅客機用ジェットエンジンPW1100G-JMのFRP製ファンケース、構造ガイドベーン(SGV)として結実し、技術発展と事業拡大に貢献された。

産業界における活動として、経団連宇宙開発利用推進委員会常任委員をはじめ、各種団体の役員、委員等を歴任し宇宙航空業界の発展のために尽力された。特に内閣府宇宙政策委員として国の政策立案に参画するとともに、当工業会においても宇宙委員会委員長として経済産業省の貿易会議団長を務めるなど、我が国宇宙産業の発展に大きく寄与した。

(2) ^{ながの ひさし}永野 尚氏

永野氏は、昭和53年、富士重工業(株)(現(株)SUBARU)宇都宮製作所に入社後、航空宇宙関係の要職を経て、同社専務執行役員 航空宇宙カンパニープレジデントを務めるなど、一貫して航空宇宙関係の事業に従事された。

この間、民間航空機分野では、ボーイング社が世界中に広がるサプライチェーン活用による量産体制を目指した787国際共同開発事業において、我が国航空機メーカーのリーダーの一人として品質、納期ともに安定した製造を実現することで事業を軌道にのせることに尽力された。787は幾多の技術課題に加えて短期間で増産が求められ、業界全体での対応が必要となった際、主導的な役割を担い、エアライン、材料・部品メーカー、及び航空機メーカーが一丸となった我が国参画企業全体の量産体制構築に寄与。社内においても優れたリーダーシップのもと、平成23年、同社にとって2度目となる「ボーイング・サプライヤー・オブ・ザ・イヤー賞」を受賞。傑出したパフォーマンスを達成した企業・団



永野 尚氏
元(株)SUBARU 専務執行役員
航空宇宙カンパニープレジデント

体に対して授与される「Pathfinder」部門における日本企業として初の受賞であり、東日本大震災による材料・部品の供給停止、輸送インフラ混乱、電力供給規制等の厳しい状況におかれながらも契約納期を守ったことが評価された。こうした評価が、日本の航空機開発技術に対するボーイング社の信頼につながり、平成25年からスタートした777X開発の日本企業の参画にも寄与したと思われる、我が国航空機産業の一層の発展と国際的地位向上に大きく貢献された。

防衛分野においては、防衛庁技術研究本部(現 防衛装備庁)の研究試作等の事業において、無人航空機の開発を主導し、当時はまだ一般的でなかったGPSを用いた自律飛行等の先進技術を確立した。現在では社会の様々な場面で使われるようになり、今後ますますその活用が期待される無人航空機のパイオニアとして技術的進歩に貢献し、国防に寄与するとともに実用化への礎が築かれた。

当工業会においては、国際委員会、組織委員会等の委員長を務め国際航空宇宙展等の開催に尽力した。平成26年からは副会長として我が国航空宇宙産業の底上げに寄与した。

2. 令和4年度「空の日」・「空の旬間」事業概要

(1) 空の日記念式典

第70回「空の日」航空関係功労者国土交通大臣表彰式

9月20日（火） 於：国土交通省 共用大会議室

(2) 広報活動

ポスター、ホームページ、グッズ製作、「くにもる」着ぐるみの活用などにより、空の日のPRを行う。

(3) 中学生派遣事業

例年、米国シアトル、フェニックス、ロサンゼルス航空関係施設の見学会を実施してきたが、新型コロナウイルス感染の影響ならびに世界情勢を鑑み、関係各位と協議の結果、今年度は昨年度に続き開催中止とする。

(4) 絵画コンテストの支援

「FAIヤング・アーティスト・コンテスト（主催：FAI（国際航空連盟）」の国内予選である「青少年航空宇宙絵画国際コンテスト」の費用の一部を支援する。

(5) 地方イベントへの支援

全国の空港等で開催される空の日イベントに対して事業費の一部を定額補助する。

さらに意欲的なイベントを計画している空港等には重点的に追加補助を行うことで、操縦士、整備士等の空港の現場を支える人材の確保のための積極的なPR活動に繋げる。

(6) 啓蒙事業の支援

①航空分野に関心を持つ若者が増加するよ

う協賛団体が行う青少年等を対象とした航空教室等の事業費の一部を支援する。

②航空スポーツ分野の安全に関する講演会、講習会等の取り組みに対して事業費支援を行う。

(7) 羽田空港周辺航空関連施設見学

関東近郊の中学生10名程度を対象とし、ANA訓練センター、JALメンテナンスセンター等の羽田空港周辺航空関連施設見学を実施する。

なお、今年度の事業について、今後の新型コロナウイルスの感染状況によっては、止む無く、延期・中止等を検討することがある。

(8) その他

当工業会は、空の日ネットと相互リンクしている「skyworks」(*)を通して若年層へ航空職種を紹介している。

(*) 当工業会は、航空機製造技術者の人材育成を図るために航空機整備士・製造技術者養成連絡協議会の事務局として製造技術者ワーキンググループを運営しており、併せて将来の人材育成に関して、日本航空機操縦士協会、日本航空技術者協会と協力して開設した航空職種紹介WEBサイト「skyworks」をもって若年層へ情報提供するとともに、女性対象のイベントを開催するなど、空の仕事への理解を深める活動に努めている。「skyworks」は当工業会ホームページともリンクしておりアクセスが可能。

〔(一社) 日本航空宇宙工業会 広報部長 高木 伸吾〕